

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語彙などの基礎的な知識を定着させていく必要がある。 読解力や書く力(文章構成の理解や語句の使い方、文の対応など)の向上を図るための指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句についての説明等を随時行っていきながら、文章構造の基本や作文の基本を教え、身につけさせるための学習を推し進める。 文章を読んで考えをまとめるなど、生徒が自ら考えて書く学習を取り入れていく。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な知識・理解の定着を図り、社会的な見方や考え方を身に付けさせていく。 主体的な活動を通して、関心・意欲・態度を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解にむけて主体的に取り組む活動を行う。また知識の定着にむけ反復学習を行う。 学習の状況を記録し、自らの学びの深まりや変化、気づきを確認できるようにする。 	○
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識・理解の定着を図り、計算が確実にできるようにする。 数学的な考え方を高める必要がある。 言語活動を効果的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題を反復練習させて基礎的内容のより確実な習得を図る。 文章から立式にするポイントをおさえ、考える力を身につけるようにし、反復学習を行う。 表現の機会を多く取り入れるようにする。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・理解の定着を図り、自然の事物・現象について、理科学的な見方・考え方ができるようにする。 実験・観察の結果を正しく記録し、グラフや表にすることで、自然の事物・現象をより正確に分析・解釈し、表現する力を高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での既習事項をより丁寧に確認するとともに、観察・実験の方法や結果の処理についての小学校との違いを明確にして取り組ませ、原理やしくみを正確に理解させる。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や創作活動に、積極的に取り組んでいる。 リコーダーや歌唱では、難しさを感じる生徒もいる。 音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動においては、表現したいイメージをもたせ、積極的に発表できる機会を作る。 個人で練習できる教材を配布したり、声掛けをおこなっていく。 音楽用語などについては、プリント等を使用して少しずつ理解させる。又、個別対応が必要な生徒には丁寧に指導していく。 	○
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵画やデザイン・彫刻・版画等の活動に意欲的に取り組み、積極的である。 美術的な見方や考え方を広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品から造形的なよさや美しさを感じ取らせ、表現させる。 言語活動を充実させ、表現の活動を多く取り入れる。 	○
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 活発な生徒がいる反面、主体的な場面が少ない生徒もいる。 実技に対する課題解決への手立てを自ら分析し、表現する力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に役割を持たせる授業作りをしていき、意欲的に授業に参加させていく。 互いの見合いによる課題の発見や、動画による分析、プリントを使用し自身のつまづきを明確に発見できるようにする。 	○

<p>技 術 家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問には積極的に応答し、意欲的に授業に取り組んでいる。 ・作品製作にも意欲的に取り組んでいるが、設計図に対して完全に正確なものを作ろうとする意識がまだ薄い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図を遵守し、オリジナリティを出すのではなく正確な作品を作ることが技術の習得には重要であることを、設計・製図の授業を通じて伝える。 ・実技指導を通じて、知識と作業を関連付けながら習得させる。 	<p>○</p>
<p>外 国 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動の経験から、英語の音に慣れ親しんでいる生徒が多く、「聞く・話す」には意欲的に取り組む。 ・「書く・読む」へのつながりでつまづく傾向が見られ、基礎的な知識の習得が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字と音声とを関連付けるため、音読の反復練習やペアワークを継続的に行い、「やりとり」に自信をもって取り組めるようにする。 ・授業プリントやワークノートを使って英文を書くことに慣れさせ、基礎知識の定着を図る。 ・人前で「発表する」ことに苦手意識があるので、プレゼンテーションの基本を身に付けさせる。 	<p>○</p>

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取るために必要な文法や、語句の意味、表現法などがやや不足しているため、基礎知識を高めていく必要がある。 さらに、読解力を高める指導の工夫も必要である。 書く力を高めるため、作文指導を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法や漢字テスト、四字熟語テスト等の練習等を繰り返し行い、ノートやワークの点検確認も継続的に行う。 有名詩文の暗唱の機会を設ける。 読書量も増やし、感想もこまめに書かせる。 機会あるごとに小作文を書かせていく。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識を定着させるための指導を、継続的に行うことが必要である。 基礎的な知識を活用して、社会的な見方・考え方を身に付ける指導を行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解にむけて主体的に取り組む活動を行う。また知識の定着にむけ反復学習を行う。 学習の状況を記録し、自らの学びの深まりや変化、気づきを確認できるようにする。 	○
数学	<ul style="list-style-type: none"> 「式の計算」や「連立方程式」などの数学的な知識や技能が不足している生徒に対する指導が必要である。 文章を式で表すことへの理解が不足している生徒に対する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算プリントや単元テストを繰り返し行い、基本的な計算問題を増やしていく。 身近な話題から数量の関係を見出し、図や表に整理する工夫と手順を繰り返し指導する。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の結果をもとに、自然の事物・現象をより正確に分析・解釈する力を高め、それをもとに論理的に推論する学習を充実させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動や教え合う活動を通して、問題解決的な学習に取り組む。 グラフ等を活用して分析・解析し、比較・分類して原理や仕組みを正確に理解する学習を増やす。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や創作、器楽の活動に、積極的に取り組んでいる。 実技において、表現することに難しさを感じている。 音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動においては、表現したいイメージをもたせ、音素材の特徴を生かし、音楽を作るようにする。 お互いに発表し合う時間を増やし、表現すること楽しむ。 音楽用語などについては、プリント等を使用して少しずつ理解させる。 	○
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵画やデザイン・彫刻・版画等の活動に意欲的に取り組み、積極的である。 美術的な見方や考え方を広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品から造形的なよさや美しさを感じ取らせ、表現させる。 言語活動を充実させ、表現の活動を多く取り入れる。 	○
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に取り組む生徒が多くいる。 苦手な種目の時に粘り強く行うことができない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで授業を行い、苦手意識を持たないように指導する。 個人の目標をしっかりと立てさせ、目標を達成できるように段階的指導をする。 	○

技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は積極的に作業に取り組む生徒が多い。反面、栽培における毎日の水やりや授業外での課題などが出来ていない生徒がいる。 ・作業を通じた基本的技能の習得は全体的によくできている。タブレット等を用いたレポートの作成も問題なく行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外の作業の必要性を伝え、指導する。 ・レポートの作成等、実際に行った作業を振り返らせることで、知識の定着を図る。 	○
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動の経験から、英語の音に慣れ親しんでいる生徒が多く、意欲的に取り組む。 ・「やりとり」は、基礎的な表現を用いることはできるが、発展的な表現や内容の幅に大きな個人差がある。 ・「書く・読む」へのつながりで躓く傾向が見られ、基礎的な知識の習得が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字と音声とを関連付けるため、音読の反復練習やペアワークを継続的に行う。 ・基礎的な内容に加え、自分らしさを表現しやすい題材や興味をもてる題材を準備し、「やりとり」の活動を充実させ、意欲の向上につなげる。 ・英語ノートやワークシートを使って英文を書くことに慣れさせ、基礎知識の定着を図る。 	○

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語彙などの基礎的な知識を定着させる必要がある。また、情報を正確に読み取るための読解力をつけさせることも必要である。 表現能力に関しては、自分の考えを整理して、文字として書き起こす能力の向上を図ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の向上のために、授業開始時に5～10分間の漢字学習を行う。 読解力の向上のために、発問の工夫をする。より正確な情報を読み取り、答えに近づけるよう、段階を踏んだ発問を行う。 定期考査には、毎回200字作文を出題し、生徒が自ら考えて書く学習を取り入れる。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識を定着させるための指導を、継続的に行うことが必要である。 発言や発表を通して授業への積極的な参加や自主的な学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解にむけて主体的に取り組む活動を行う。また知識の定着にむけ反復学習を行う。 学習の状況を記録し、自らの学びの深まりや変化、気づきを確認できるようにする。 	○
数学	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な技能については、段階に応じて継続的な指導が必要である。 数学的な考え方を課題とする生徒が多く、事象を数理的に考える指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 狭い範囲の小テストを多くこなし、理解が不十分な部分を繰り返し演習させる。また、補充学習を繰り返し、計算力を高めていく。 生徒がイメージしやすい教材を取り入れ、考える時間を増やし、考え方を共有していく。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の結果の分析・解釈とそれに基づく推論に取り組む時間をより多くする必要がある。また、学習内容を日常生活との関わりの中で理解を深めさせ、科学的思考やその表現を育成する指導の工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 探求的な学習を行うとともに、観察・実験の結果を発表し合って議論する活動を取り入れることで、科学的な思考を深めるように指導する。 既習事項の確認を繰り返し行い、理解をより深めさせる。 問題演習の時間を可能な限り確保する。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や創作、器楽や歌唱の活動に、積極的に取り組んでいる。 音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動においては、表現したいイメージをもたせ、音素材の特徴を生かし、音楽を作るようにする。発表も積極的に行う。 音楽用語などについては、鑑賞の感想で取り入れるように工夫を促す。 	○
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵画やデザイン・彫刻・版画等の活動に意欲的に取り組み、積極的である。 美術的な見方や考え方を広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品から造形的なよさや美しさを感じ取らせ、表現させる。 言語活動を充実させ、表現の活動を多く取り入れる。 	○
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 体育係を中心に生徒が主体的に授業を進めている。 個々で課題を解決するために練習をする生徒が多くいるが他者と協力して進めることが上手くできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの技術をスモールステップで指導をし、課題に対して粘り強く行えるようにさせる。 授業の雰囲気作りをしっかりとさせる。他者と協力しながら課題を解決できる練習方法を伝えていく。 	○

技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングによる作品制作では、生徒ごとに作業理解および進度の差が大きく出ている。 ・作業自体は全員着実に進んでおり、全体的に意欲も高い。 ・幼児の特徴について理解し、コミュニケーションを図る手段としてクッション製作に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Classroom や Google ドライブを活用して生徒が作品制作のための全ての資料・素材をいつでも閲覧・利用できる状態を整えている。必要に応じて自身の作業に対応する資料を見ながら作業を進める事を促す。 ・基礎的な知識と、社会状況、及びその課題を考えさせる。 ・創意工夫できる製作物に取り組む。 	○
外国語	<p>全体的に落ち着いて授業に取り組む生徒が多い。ワークノートやワークシートの提出もほとんどの生徒がきちんとできている。発表はマイクの使用で声が届くようになり、タブレットを使った資料の提示は上達しているが、アイコンタクトなどの発表技術には課題がある。新たに加わったやり取りについては、フリートークを日ごろの活動に取り入れ会話を楽しむ姿勢をはぐくむ必要がある。プリントなどの作業進度において個人差があるので、基礎を定着させる工夫と改善が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の定着を図るために授業プリント・ワークシートを活用する。 ・作品制作では、計画的に作業を進めるようにし、タブレットに課題を配布して家でもできるようにしていく。 ・スピーチ練習やフリートーク練習など「話すこと」を取り入れた授業を行い、会話に慣れさせる。 ・各自の進度や理解度を把握し、基礎を定着させるために個に応じた指導をする。 	○